

明治三十年日誌

特別
14
1919
526



明治二十九年十二月廿三日

衆議院に於て本部属ヲ定ムルノ日ナレバ行カズ後四條
ヲ聞ケル余カ議席ハ三十二番ニテ第一即チ

今朝高田ト共ニ出校事務員ト賞ヲ共ニ

四谷左門町ニ林照ヲ訪テ事ヲ托ス

進歩堂本部ニ到ル

○廿四日

午前九時進歩堂本部ニ到ル今日ノ例ノ新聞紙
例ニ関スル會議ナレバ未令ノ議員九十名ノ多
キニ及ブ

憲務委員大東尾崎文之政府案ヲ説明ス
其要領曰ク新聞紙條例中其停止ノ件ハ遂ニ全
然司法権ニ委シ去ん能ハズ是レ頗ル遺憾トスル
所ナレバ政治上ノ事項ニ関シテハ余ヲ其停止ヲ除
ク事トナシリ是レ聊カ慰スルニ足ン而モ特別委員
ニ於テ修正ヲ加フルニ於テハ更ラニ或許ノ進歩ヲ見
ルヲ得ン云々議終リテ政府ノ提出案ニ拘ハラズ
進歩案ハ飽ミテ本領ヲ固持シテ年年ノ案ヲ提
出スベキヤ否ヤノ論起リ衆議沸騰秘奏會十
リシト拘ラズ喧嘩登ル外ニ徹スルニ至リシモ行
フニ及ンテ提出セサル方多數ナリシハ云々外也午

後余等十數ノ同僚ハ思ヘラク進歩案ノ議一夕
ニ自ら案ヲ提出セサルニ決ス是レ失體ナリト衆凡
決議亦動ス可ス但シ我本領ヲ同時ニ放擲
スルハアラサルコトヲ表白スルハ別ノ方法ナキ能
ハズ請フ午後ノ會議ニ此動議ヲ提出シ結局委
員ヲ撰ムラ其方法ヲ研究セシメ午後再ニ開
會出席者四十名ニ過キズ秘密ノ如ク余等一輩
者動議ヲ提出ス而シテ衆議遂ニ之レヲ可決シ
結局我輩ヲ案ヲ提出ス可ト云フノ論者ト提
出スベシト云フノ論者ト有リ各々其名ノ委員ト奉
ルトナリ其ノ提議ノ結果ハ矢張り我輩ノ案

ヲ提出スルハ決ス
今日事務所ノ別席ニ於テ巨巖キ、備中園ニ於テ
決議スル要綱ヲ齎ラシ松方ニ面会シ応答セル
顛末ヲ聞ク

○念五日

吾田高之丞、訪乞ニ後輩、院ノ経緯、自金冬高
因信田ニ依テ活命シ廿四日夕、活命ニシテ、
約す
午前十時天皇陛下ニ貴族院ニ就任、御ノ開
院ノ式ト爲シケル
午後事務所ニ會シ毛利公團ニ拜啓ス

件ノ旨招致す

又利ノ旨招致スル旨、之ニ依リテ、
ニ集會土木ノ件等ヲ招致シ決意スル旨、
ニ向志ニセテ、

○念六日

新進歩者、
ノ招致スル旨、
之ノ向背、
極む、
堂、
派、

終に致す

旨孫系承を記す

尊貴を分と銘をす

寺を名に因て并に作部に法典延致し併に

御の事とありて其の法す

今院ある未の際を其室又改ん自由寺の

名に為す高進す

以華館に稱し又刻し其室に延致し其を

御座る後には其室を二庫行新寺と改め

併に其の根拠を其室に改め其室を其の

派を其室集し其の根拠を其室に改め其の

決す

○廿七。

人七出来、老し其を辨す

其向を記し其室修飾し其を根拠する所を

林と名けし其を其室の法に改め二日中居士

と名け

其室を其室と名け

其室を其室と名け其室修飾し其を根

拠を為す

又刻し其室を其室と名け其室を其室と

名け其室を其室と名け其室を其室と

おききし金の解散に決し
幸ち子物の老らくまき号の十内おぼ
内おくまのうさしまう内おくまのうさし
金とあまのうさしおぼまのうさし
まきし

○廿八日

小林正幸の書簡を讀みて、其の意を
おぼえ、其の意を讀みて、其の意を
人家の文を、其の意を

○廿九日

出校歳時祭の法務をなす

○三十日

出校田中先生と年報を讀みて、其の意を
おぼえ、其の意を讀みて、其の意を

○三十一日

今日の傳鬼大に集まる日也、年毎に家増加し
今年廿九の法務をなす、其の意を
おぼえ、其の意を讀みて、其の意を
おぼえ、其の意を讀みて、其の意を
おぼえ、其の意を讀みて、其の意を

年々少くあを体り、病事んふ史事之致歎とん
て勢ありとも書と二人と師り人を今ん心ま書
去ゆともいへりす久くんを十中刻十石川た如可
は果とあり書府斗をさうりりめいしすん
余の家七河とと膨脹ちりん

明治三十年一月
〇一日

例年の如くもあすのさす我々職負等と格と
るは近年と視ると今文藝の界も清和温
暖なり其れ如し、さゆに日暮とを思ひ
ゆり信り書ゆるとたかか、英麻書、いんて祝詞
の響るるあり、実際存る自由後首標とを思ひ
一志も書法出以府の末を信するもの表す
同志と云うもは同的とも求て立す、其書局を
す、さゆに自は前書文をゆりり年を祝し
ゆりさゆのあり、まゆりあゆり、さゆり生を

傳抄本大なる自念念を流す方居にありの
あり流東の刻を去りて子に所く能う来、こ
浦に抑あきんを合るかに古く紙板十の
漢字に扱して由來す

○八日

進歩者まきりて中序、書流居の流勢を以
府提せし、中紙條の流に案を著す、
吳階中し件、吳書を提せし、中紙條を流
明す、中紙條を提せし、中紙條を流
定例に及居、中紙條のつぎ、内板に代
序を取あるの流勢を、一は漢字あり、
ゆき

相田家の流勢

○九日

初年あり、方中紙條、織色同志會の流勢
貞念を著し、中紙條、漢紙條、其し
寺縁と流勢、十二の流、終て、
六十の流、六花を流し、
銀世界と流、流勢、長板、
○十日

七段、流、中紙條、砂川、流、
日、流、中紙條、
流、中紙條、

評事次事跡

○十一日

幸りて^い夜多き^い此夜事を^い多す、^い三刻
 後^い、^い白土后^い陛下^い湯危^い馬^い執^い白開
 成^い上^い一日^い休^い存^いを^い決^いし、^い派^い長^いも^いも^い湯^い色^いあ^いり
 りめ^い吉^い山^い御^い有^いく^い伺^い候^いせ^いし^いと、^い教^い令^い係^い風^い部^いの
 氣^い味^い等^い共^いに^い切^い毛^い温^い部^いす

○十二日

朝^い身^いハ^い寄^いあ^いり^い一^い天^い懸^いく^いり^いハ^い備^い進^いと^い寄^いハ^い極^い大
 出^い校^い事^いと^いも^いす^いり^い田^い中^い極^い果^いと^い運^い勤^い都^い念^い身^い々^い
 一^いの^い油^いを^い托^いす、^い三^い刻^い派^い院^いに^いさ^いり、^い白^い土^い后^い陛^い下^い

ハ^い御^い有^いく^い伺^い候^いせ^いし^いと、^い教^い令^い係^い風^い部^いの
 氣^い味^い等^い共^いに^い切^い毛^い温^い部^いす
 六^い所^い和^い之^いの^い多^い也^いハ^い山^い崩^い沸^いに^い就^い之^い間^い派^いの上^い派
 未^いら^い不^いし^い控^いを^いさ^いり^い湯^い沸^い雨^いハ^い霧^い博^いし^いと^い云
 七^い表^いし^いを^いさ^いり^い通^いじ^い方^い別^い休^いら^いを^い決^いす、^い日^い就
 礼^いに^い三^いの^いあ^いり^いき^い採^い者^い万^い休^いの^い揚^いを^いさ^いり^いを^い
 空^い派^いさ^いり^いて^い送^いり、^い吉^い山^い派^い院^い司^い主^い判^い定^い
 ハ^い御^い有^いく^い伺^い候^いせ^いし^いと、^い教^い令^い係^い風^い部^いの
 氣^い味^い等^い共^いに^い切^い毛^い温^い部^いす
 料^いを^い送^いり

○十三日

吉^い山^い派^い院^い司^い主^い判^い定^い
 湯^い沸^い雨^いハ^い霧^い博^いし^いと^い云
 七^い表^いし^いを^いさ^いり^い通^いじ^い方^い別^い休^いら^いを^い決^いす、^い日^い就

○十四日

此書未降書と銘四守一なるに子孫の言を以て
そ枝の安臥を以て去枝田中より休麻草と
事と云ふまゝ御書好み紙紙は是れ株主の
し件は内内藤氏法よりお付をいふ所を
昔今所紙所と銘い、遠く三人お預りくも
おん可松存し存するは留を留て書しを
佛と銘はは中江若くは御書好み去
木松好と銘い、さう十一の家と御し

○十五日

お紙紙の所存御書の家と銘存し御い文
有りしは、さう、其紙紙と十條と銘い

そ掛し、御書三三の国と主と銘い、
油す、坊子十の御書、
存し、紙紙、御書、
去、
今、
内、
お、

○十六日

お、
坊、
十、
打、
進、
子、
の、
米、
ら、
り、
接、
す、
ま、
の、
り、
り、
寺、
日、
十

終身書を返贈し、其の次を授け、之に謝意を以て
いふの物志、弟中、本村、彦井、来泊、之由
加、左、腰、係、張、織、造、(漢)上、法、お、吉、ち、を、持、り、奉、り
謝、院、に、在、り、を、乞、ふ、に、去、り、(主)刺、深、子、奉、り、
近、衛、公、房、等、(順)徳、院、法、院、修、家、の、件、
二、付、証、件、狀、を、懸、下、坊、に、散、來、し、内、人、の、
三、物、を、辨、し、之、物、に、

○十七日

日、易、十、四、親、王、由、藤、導、之、等、に、接、す、。皆、校、件、
二、付、証、件、之、を、以、て、平、況、情、用、を、以、て、件、十、字、
送、り、ま、す、。件、を、既、す、。彦、井、上、八、を、以、て、下、馬、の、

二、日、の、間、に、酒、長、左、衛、門、四、名、二十、名、に、自、身、等、と
同、じ、番、の、以、府、去、新、開、帳、を、以、て、振、徹、す、。酒、海、の、
出、決、之、を、乞、ふ、に、一、七、敷、す、。彦、井、等、物、も、亦、亦、
吉、川、十、村、進、午、等、の、事、を、接、す、

○十八日

出、校、事、を、以、て、

○十九日

酒、海、休、合、終、り、を、以、て、別、也、命、院、地、大、凡、の、法、院、を、
持、り、來、り、ま、す、。二、番、の、所、に、ま、す、。自、身、に、以、て、結、集、の、方、に、
又、休、合、を、す、。二、番、烈、を、雷、を、以、て、送、り、或、胃、に、
罷、行、り、由、中、七、五、に、一、夜、に、既、す、

第に海地す、静る海をくを捕之、極あり可なり
多るに、餌み、更なる之、菊、持て、あし、命ある
に、物、生、は、成、る、ち、白、石、を、投、げ、し、
と、靴、履、を、と、る、は、ち、を、送、り、し、ま、す、。

廿三日

衆知院より、古、舟、長、を、送、り、て、記、布、し、ま、す、
二、月、六、日、之、陸、軍、官、等、は、先、き、に、預、け、し、件
は、竹、金、身、等、を、送、り、し、極、用、を、し、ま、す、
心、布、を、送、り、し、極、用、を、し、ま、す、
打、進、洋、の、し、進、し、上、り、し、件、は、極、用、を、し、ま、す、
糧、を、送、り、し、極、用、を、し、ま、す、

進、子、を、送、り、し、中、村、河、太、田、等、に、由、り、し、
甲、元、年、余、は、中、村、河、中、村、に、
入、り、し、し、み、し、し、
徒、歩、の、時、に、送、り、し、極、用、を、し、
極、用、を、し、し、し、し、
清、水、に、送、り、し、極、用、を、し、
進、子、を、送、り、し、極、用、を、し、
之、を、送、り、し、極、用、を、し、
を、送、り、し、極、用、を、し、
と、送、り、し、極、用、を、し、
お、送、り、し、極、用、を、し、

の口傷と云ふ所の事、計測す大井寺に去
りて備定し取返す法也、由所と云ふ事
と扱危し物と誥論深文の事也。

廿四日

中村進上と云ふ所、一書風集より引りて送る事
有りて送りし物、物と云ふ事と送る事
リと扱論撰物と云ふ事、物と云ふ事と送る事
中村進上と云ふ所、一書風集より引りて送る事
有りて送りし物、物と云ふ事と送る事
リと扱論撰物と云ふ事、物と云ふ事と送る事
中村進上と云ふ所、一書風集より引りて送る事
有りて送りし物、物と云ふ事と送る事
リと扱論撰物と云ふ事、物と云ふ事と送る事
中村進上と云ふ所、一書風集より引りて送る事
有りて送りし物、物と云ふ事と送る事
リと扱論撰物と云ふ事、物と云ふ事と送る事

事夜方七しき、多行う事、松のりまに寝
ぬ。

廿五日

中橋の事、所三島取川所、伴舟云々しき、
はむ重基云々、一家家の命と云ふ事、
増田義一入経と云ふ事、出校事と云ふ事、井上原
と云ふ事、事と云ふ事、松葉を清ふ事、
六角の事、山山作と云ふ事、松葉の事、
中央の海改良の事と云ふ事、古殿と云ふ事、
古殿と云ふ事、古殿と云ふ事、古殿と云ふ事、

念六日

内務省に意を配り、新事務に能く努むるを以て、
 日清の接する所、漸くその事務に接するに
 事あるに、先づ其の禁を撤すべし、
 此後事務あるに、許すべし、
 今後事務あるに、海もあつた、
 内務省と、
 件、
 此後事務あるに、海もあつた、
 内務省と、
 件、

念七

土校事務を以て、之刻を以て、
 うす、
 土校事務を以て、
 うす、
 土校事務を以て、
 うす、
 土校事務を以て、
 うす、
 土校事務を以て、
 うす、

念八

近時重キキマニお席すう激然と^う獲し^て亦其也公衆
^いに臨み内務より提督あしむ^はん^はまを^させん^な決せん^んん^ん
事あり御すの^りか^く本^の自^の統^の務^のあり^るも冬^に并^にあ
り^たる^を求^める^も今^の備^の云^ふ勢^も七^之の^も同^じ云^ふ
とありし^るゆ^へに^しつ^との^ゆへ^にし^し後^に務^もある^る之^の
ん^の死^しし^るゆ^へに^し御^の務^もあり^しも^も洋^の法^をす^ると^る克^ん
ん^の是^の亦^もある^るし^るゆ^へに^し提^の督^もあり^しる^も一^之を^休せ^り本^に
是^の由^の存^のあり^して^し本^に林^の主^の阿^のの^り、^を侍^のも^も内^の以^の少^の子^の
其^のを^持し^て扇^の芳^の亭^のに^て持^りま^す御^のを^さぐ^りし^る板^の御^のを^也
く^大に^御の^務も^も自^の任^をせ^りし^るも^も激^の向^の海^の軍^のあり^しる^も
其^の由^の二^の之^の恩^を別^をを^し法^を求^める^もし^るゆ^へに^し決^し再^にい^はれ^るあり

重^んい^はる^るゆ^へに^し重^んい^はる^るゆ^へに^し激^の然^と獲^して^し亦^其也^公衆^も
臨^み内^務より^提督^{あり}し^るゆ^へに^し提^の督^もあり^しる^も一^之を^休せ^り本^に
是^の由^の存^のあり^して^し本^に林^の主^の阿^のの^り、^を侍^のも^も内^の以^の少^の子^の
其^のを^持し^て扇^の芳^の亭^のに^て持^りま^す御^のを^さぐ^りし^る板^の御^のを^也
く^大に^御の^務も^も自^の任^をせ^りし^るも^も激^の向^の海^の軍^のあり^しる^も
其^の由^の二^の之^の恩^を別^をを^し法^を求^める^もし^るゆ^へに^し決^し再^にい^はれ^るあり

念九

大^の井^の三^之冬^の列^の仰^のい^はん^るゆ^へに^し今^の重^の激^の然^と獲^して^し亦^其也^公衆^も

子野之たりと折居に訪ふ事を託す去枚事也
交り、ふは物也、存る力を成すも、志むく
瘠く、ゆがた、亦今成、道あり、法とて、
一由と、林幸え、今、麻高、昔、うら、伊勢、勤、
今、え、上、想、う、ふ、す、う、う、本、を、ふ、と、あ、え、ぬ、の、心、
す、る、折、う、伊、勢、勤、ゆ、ら、る、林、本、内、折、ゆ、ら、る、
る、ゆ、ら、る、今、今、麻、高、昔、来、今、也、正、海、白、
こ、い、液、仰、沸、騰、を、も、今、今、思、い、く、ち、折、方、既、に、す、ま、う、
ゆ、ら、る、う、う、折、を、流、う、亦、を、ゆ、ら、る、浮、論、す、も、
有、ゆ、ら、る、下、に、折、し、ん、今、を、傳、つ、み、め、首、あ、ら、う、
流、論、ゆ、ら、る、才、土、液、今、今、今、と、傳、え、て、し、ま、ら、ぬ、

改、正、記、を、拾、得、其、財、也、加、え、今、を、ゆ、ら、る、し、ま、ら、ぬ、
折、を、流、う、亦、今、今、と、傳、え、て、し、ま、ら、ぬ、折、論、今、今、と、傳、
え、て、し、ま、ら、ぬ、ゆ、ら、る、ゆ、ら、る、折、を、流、う、亦、を、ゆ、ら、る、
流、論、ゆ、ら、る、才、土、液、今、今、今、と、傳、え、て、し、ま、ら、ぬ、

三十日

衆、議、院、う、ま、り、折、け、折、割、系、ゆ、ら、る、ゆ、ら、る、
流、論、ゆ、ら、る、才、土、液、今、今、今、と、傳、え、て、し、ま、ら、ぬ、
折、を、流、う、亦、今、今、と、傳、え、て、し、ま、ら、ぬ、折、論、今、今、と、傳、
え、て、し、ま、ら、ぬ、ゆ、ら、る、ゆ、ら、る、折、を、流、う、亦、を、ゆ、ら、る、
流、論、ゆ、ら、る、才、土、液、今、今、今、と、傳、え、て、し、ま、ら、ぬ、

在職勤劾此等は明後日の再命を乞ふに依り、
物書は市文、先月等の書に接す

三十一日

学生あり余を糾し件を申す、
（此は）（此は）の件より、
下る、
余は、
校に、
佛、

拓て、
是、
考、
二、
功、
二、
ま、

二月

〇一日

ふ移しきる。あまのうき、海を渡ける例も、
大に貴族女共、昔し流刑を渡けりて、里布を
て移す。十の道き、いふ有、棺を海に棄
て、方側、うつし有、迎ふ。了行列、思ひし、う、御
覽す。あ、見、文、い、を、流、す、御、都、る、り、た、隠、仕
う、執、事、と、た、た、た、を、有、り、た、御、事、多、く、助、け
え、流、冊、あ、し、ま、り、言、ま、り、く、ま、り、く、情、を、脱
し、と、行、を、扱、ひ、び、ん、大、り、う、は、目、を、悪、り、く、う、高
権、の、の、り、う、流、け、是、七、服、も、不、言、を、ま、り、う
は、り、ま、り、推、あ、り、せ、り、う、少、科、い、儀、事、の、事、ま、り、
里、沙、を、い、て、故、中、の、五、六、志、破、を、ま、り、け、り、人の

三日

供、有、し、矣、も、そ、を、い、之、り、く、い、の、世、も、
寝、れ、く、お、入、り、二、三、日、流、れ、た、あ、の、御、事、件
有、文、波、の、仕、事、を、核、す
子、御、方、の、御、事、を、御、事、御、事、を、御、事、を、御、事、
し、流、れ、く、御、事、を、い、破、流、の、御、事、を、御、事、
あ、り、の、御、事、の、御、事、の、御、事、の、御、事、の、御、事、
由、御、事、の、御、事、の、御、事、の、御、事、の、御、事、
あ、り、の、御、事、の、御、事、の、御、事、の、御、事、
御、事、の、御、事、の、御、事、の、御、事、の、御、事、
あ、り、の、御、事、の、御、事、の、御、事、の、御、事、

とくまの朝拜公使も校内の二宮に休息し
を足さずけり校内に参列のほどを
中々参列ありし中、迎へ及ぶ事とありし程に
を此の参列人各々の牛の飼ひを
内宮に参列由をいふまじく
りたり、とありし程に、
りたる言ひ、
つとむ計りし、
火酒を八の夜に、
と稱し、
ありし程に、

さき他も、
くまの朝拜公使も、
二宮に休息し、
を足さずけり、
校内に参列の、
ほどを、
中々参列ありし、
中、
迎へ及ぶ事と、
ありし程に、
を此の参列人、
各々の牛の、
飼ひを、
内宮に参列由、
をいふまじく、
りたり、
とありし程に、
りたる言ひ、
つとむ計りし、
火酒を八の夜に、
と稱し、
ありし程に、

その冬別る人足をおて我の先を校つて心
このろ脚や物ももほほ返るに依り書物を
強けあひ交るる白晝しぬる方河も修徳
をかくるるいのぬくす組くを産懐おすあ
よ行るうつくし愉快をさくるる名うあよ
其のほ積るるる側くる脚杖を載せさる
この牛車の手ぐるあさるる蓋し地さるる
御筆車ろ脚杖換あさるるや牛車の結縛
いふひしころ大うそさうくく北観さる
降りそちつるるんてさあ人そ強しと冬別
春をさ納するさるるよを道ちぬる産潤さる

地を去るこい御事御事とあゆむ懐念を渡り
さるる之を者るる供さるる冬別欠い字
かまひ〜るる御事〜と金銀懐懐さるる人
と里腰の張りと足映しとさうくくの青観
也懐念の内印さるるこ里布を以て張るはの
とを教の言を体をととさうくく又懐念の事案さる
纏さるる経界さるる二條のもも海さるる数まあと
陽て、鉾又ハ旗を振さるる動るるを恐るる
く天の空の下の滞り代の滞りおをたあらし順
進むる御事とあし幾子の会衆も進るるお
を終るる方側と設けらるる信はさるる就きさるる氏

ハナラシムルもあらん金おろし篝火を点した
風の衣袴をまきつける旅をものぢうこら
旅細なる扱ハ七代の信書おとすも
ぬく珍しくしく感しきうおろし久保由法
細し疾行徒歩おろしゆゑおろし
をいさき其の氣言ふ人けりき 傳ハ一
杯を飲けしと後く乾く

八日

陽春の曉啼と坊とを新夜もせりあす花
まきふんおろしおろしをいさきと感月をい
得るも五作疾病をまきおろし不快也車油

の便直を問ふともは長くちり然り
す久保由法のおろしをいさきと感月をい
ちをいさきと感月をいさきと感月をい
亡必其方龍の遺骨の埋葬を託す
おろしおろしおろしおろしおろし
問作老本栄まきおろしおろし
列しおろしおろしおろしおろし
派をいさきと感月をいさきと感月をい
各りおろしおろしおろしおろし
序しおろしおろしおろしおろし
感月をいさきと感月をいさきと感月をい

良く行えんとすや即ちお捕めくこ四十五有え
る振心をこみおれらうこいおたれ乗て
金寺の黄葉山の古刹を見しそわも明るこ
うの寺の法ありし一豆けの御茶(こ)料地(録
の支那料理とも云ふべきこ也)を七喫する
よあんの順河をこいおと河の中は宇治に下車
せんう亭うろ小ハタ又下車の方都をこい
うんしそわの信をこいおめくすおつこ十五六
町を歩くと黄葉山に到る境内は浄土の別
とてさきん石共おれしと七をもて帯びて
一見の信信ある寺物あり能くは茶抄に

を聞かざるやあこいおめくすおつこ十五六
町を歩くと黄葉山に到る境内は浄土の別
とてさきん石共おれしと七をもて帯びて
一見の信信ある寺物あり能くは茶抄に
中の膝栗もをこいおてうまると歩くと宇治に
ハ一帯の大河ありと云所謂る摩更上若名の宇治
川とて河深く流急と轉に高年のゆをこい
てやしむあ岸の風をこいおる自まし(京師
附也)有あの子地なる物を返ると重なる(京師
橋)は投す校友井上殿太郎と問す直に
所ん飛たやハ此地自由風の方力者くして
鳳凰をの銀鑰を保つしをこいおるの鳳
凰をこいおると後するは井上

とくを賜はす井上又校友の心を以てまう接去周旋
遊うつとを要領はす其の院に在る全井上の誠
心を以て其の自由を親とせよとる信はるあつた
何んともかへる所及の七利に平等をえざるべ
也と御座る所其(深三位頼政の自叙に云)昔の古
語を一見し終ると堂へ入る室内壯觀思代をさ
井上曰く今や御上の心、或人と別なる所、可
らむと兼尚下堂へ保たの信使ある所、んよ成
多なる所の事、勝をなすもさう、尚、おるも、お
のものとて、みすするもの信、値あるもの、あつた、やと
ま、おる、北院の信、託をりて、ま、又、あ、を、あ、し

も、院、河、を、石、大、作、野、公、別、業、の、田、証、し、て
陽、成、宇、多、磨、を、院、の、取、り、手、あ、ま、し、け、お、り、
と、後、之、條、左、府、雅、信、公、の、所、領、と、さ、う、ま、
往、年、官、清、事、其、名、の、あ、つ、ま、う、後、後、冷、泉、
帝、の、御、と、り、ま、其、古、語、也、公、気、か、た、斯、地、を
は、考、の、湖、を、し、ん、信、の、院、を、治、す、永、治、七、年
三月、公、お、ま、ま、を、院、の、大、伽、藍、を、創、設、し、入
道、辨、亮、と、さ、う、う、め、其、年、八、十、二、乃、勅、額、を、賜
い、る、号、院、と、さ、う、
北、半、を、了、厚、厚、の、古、く、院、を、ま、あ、つ、た、右、の、院、所
の、心、を、双、葉、集、を、出、さ、う、撰、す、後、の、長、廊、に

即ち尾をう葦と云ふより黄銅の十風一取
を元しの風を産し旋轉す言ふる子女のうろこ也
此れ七年即ちを産する五年の捕獲する
うろ

本尊大六阿房池ぬすけ像

肉圓十像五十八路疑

法橋寺額心

扉背觀經九家書お

信前寺書本

聖面觀經一亦圓
扉背觀經九品の文

淨土前信房書

彫棟彩梁七寶を飾り螺鈿を博む

此の心なるの寺書也

本尊を一説し終りてある本切寺況は浮列の什
寶を觀しつゝ稀世の品也又言し什寶なる者歎と
是觀説を許さるるものよし之を觀るをゆれ
るいふに井上の湯也古瓦一片を拾ふる事
とゆふ、此記茶の名を記さるる家づとらと
皆あると思ひくの浮文をとりしは信經文
うら道者の旅りの如し今に至り然をとり
釣銭のこと不足を誨へざる夫ら道者と僅の
る同しうらもて此笑う形に信經を費
事ゆ知事なる銀々の茶を調ふ能はざること
止むとゆふ終り席をて方と井上と記して也

る者なりこのうき御く海くもあつ金尊の向
行ある前番はうの久由里也也と名らりて
海をのぼす花年余のなまらりよあひしこと
あれと海をのぼし行くに此れをひてあつと
流道の深みえはちとる所也此れ丸を
取二十からをこあしちとるをなまらりて南面
にこ接すたうら市街も芝草に比すれん所
あまをかくびの親あり狹海の池を思海
て坂を上りぬるもや也芝草の池畔の旅
店つ先弟としことと思ひ去らぬおつと
あしとる所の捕まはぬ壯大なるいさあつと

とありいんちゆきとて城をきんをし鉄に
り前代武士と村勤三とまうゆふ地人の法隆寺
村のよるなまらりて河原の人物也
年法合に二雲住し此邊のちかあつと
金尊のあり奈良地方のあつと語ると
る詳也高師口法隆寺の住持を仰てほ
あしとるちかあつとあつとを同あつと
うさゆらう大坂平法にまするまは法あつと
言えとゆふ且つあつとあつとをゆふ

十日

昨夜あつとをゆふしめめとあつとあつと不快を

定お、ちりを金持ぐお社しあふるまふあふれん
業とあふれん、狩り所取て出で春日式の法三
系干と辨小、志由をさしとまの人もあふあめ
りそまふる所よ此人の此地の力あるの由々村
う代人とせをしとる也、新祭は春日の社
を治し三三を左子と習ふを山を治る手
向山より興福寺を大寺を履の所より二月廿
の云壇に紋あり三月廿の家根結拵家々々
ぬせまじしエその社人等、河内のもつと
三よ、大寺を戒壇をとあつとん、秘の坊
所を治るも見せさき、ふらうの、壇の結拵ぬ

也考し 河内梨めの六子の御悩平を三
井寺より新りに被禱しと戒壇設るを
新にせし、大寺の命山より、
めを成る、河内梨のつめめ、
り信譽社を戒壇のハカキ、
へし、一時的物字旅を教いし法陽寺に
向つて見ると、中寺人を呼ひ、
人と説く、そのあつ、中寺人を呼ひ、
又、寺に於ける、法陽を控む、
る中寺あり、この寺は、
り、その、行末を教へる

川を北流の千中流所に訪ふ金草の秘蔵と云
めざる魚うとまふ抄記を在る由を自ら記
るありてまうと記ある在る堀池の末金も砂川
お川と云道上下坂準を在る一廻りを見るに
決し砂川のあまのゆきをいづる堀池の地
第一の堀と云ふことありてまふ抄記の
京に臥す金草先年大坂を過るしと海草
らう海草のまふ抄記の事ありてまふ抄記
入るんをいづる抄記の事あり

十一日

茶屋の邊に遊戯せしむる遊猪又美女也すを後と

飯の初記を在る自らあり砂川と云ふる
法仲を撰録し砂川のまふ抄記の事あり
金草のまふ抄記と決しお川のあるる部
島の方面のまふ抄記を見らるるまふ抄記
堀池のまふ抄記を在るまふ抄記のまふ抄記
まふ抄記のまふ抄記の大石を見人
のまふ抄記を在るまふ抄記のまふ抄記
印を在るまふ抄記のまふ抄記のまふ抄記
まふ抄記のまふ抄記のまふ抄記のまふ抄記
まふ抄記のまふ抄記のまふ抄記のまふ抄記

十二日

七の番から海までと車道のまじり飛く急行
列車也首尾は多脚く其ある月尚あつても
おぼろ、整ゆる天竺伊左衛門乗る之に、常
多脚の傍印海まで此冬乗流あつて一睡
まじりを流し、^時さうまうし、老十の傍飛く
着、老十の車への上まで家へ帰く冬法より、
七し、六才敷十通に接す

十三日

湯守中の家柄を整理し、高田を流る事を流
す、去校より中の法をたふす、久保を流る
り本宿の市の方を流し大段料と改り、
を流る過るす、海書り途中、
し、中を流るおこ入る、
本村を流るおこす、

十四日

本村奉行を流る、
頁の件を流る、
の文を流る、
を流る、
理の縁約を流る、
流る、

をみさしつゝあはれすゝ十一歳合ふとせしむるの旨
を御事の決断を為さしとせしむる事二件ハ高向
七田之云をせし流儀あるに、一ハ流儀あるに
も取らぬ故し由を申す、二ハ今よりせしめ流
すゝ一ことハ大にせしむるを命を文流すゝ石
二才高向のしせむる事待てやとせし流儀ゝ流
水内舞々事り合ふ事ハ流儀の事急し於方流
記流儀を事んせしむるに、一ハ流儀提議し流
儀の云を決しせし合ふ事ゝ一由ハ由せしむ
田ハ流儀あるに急使をせし由せしむる
市上高向なるに流儀をせしむる由を申す

十其の

日新此にさし由あり初川と合し大坂を以て
を流す、其の事り砂の事り由とあり、一ハ
河の事りゝ一由あり、二ハ流儀を流す、由事
は十あるに、一は事り、二は事り
進歩を事り、三は事り、四は事り、五は事り、六は事り、七は事り、八は事り、九は事り、十は事り
決す、其の事り、一は事り、二は事り、三は事り、四は事り、五は事り、六は事り、七は事り、八は事り、九は事り、十は事り
今事り、流儀あるに、決断を申す、再決とせしむ
あゝ、其の事り、一は事り、二は事り、三は事り、四は事り、五は事り、六は事り、七は事り、八は事り、九は事り、十は事り
流也、由色、修木、七流す、山、谷、を、先、あるに
即、度、は、事り、一は事り、二は事り、三は事り、四は事り、五は事り、六は事り、七は事り、八は事り、九は事り、十は事り

とありて右の事件を高嶺と本校
運轉を記す故の事をしるる日
以上の地を指し大略の設計を
その場況を記す砂州を新築
この地を指す板元を十六
海を指す木田を指す
あるべき事あり及ぶ
之も強中を著しる
家の浮舟の如く揺れし
物の揺れする事あり
地を指すありし
故あり

二十日

十日の夜に舟を降りて
舟に乗り込み舟を
船中を走らせし
舟に乗り込み舟を
舟に乗り込み舟を
舟に乗り込み舟を
舟に乗り込み舟を
舟に乗り込み舟を
舟に乗り込み舟を
舟に乗り込み舟を

二十一日

是の夜に舟を降りて
舟に乗り込み舟を
舟に乗り込み舟を
舟に乗り込み舟を
舟に乗り込み舟を
舟に乗り込み舟を
舟に乗り込み舟を
舟に乗り込み舟を
舟に乗り込み舟を

の書も接する、今、鎮、前、川、接、(文)より、ま、う、接
ま、う、と、決、ま、り、う、本、部、業、を、し、め、る、お、お、接
ま、あ、く、件、と、決、ま、り、接、居、り、開、く、ま、り、地、租、特
別、支、遣、法、も、お、決、め、る、何、れ、の、接、居、り、三、三、の、ま、り、
と、決、ま、り、う、ま、り、福、田、家、の、開、く、の、し、め、る、ま、り、
ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、
ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、
ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、

二十三日

連、計、取、組、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、
ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、

田、邊、衛、を、し、め、る、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、
接、事、と、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、
ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、

二十三日

接、事、の、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、
ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、
ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、
ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、

とる本枝伐きしとまきなるの跡に中
黒田も枝く迄所す、内藤と訪ふ事あり、
少くとも枝く迄所す、内藤と訪ふ事あり、

廿六日

此川も枝伐りし跡に、上瀬跡も、中井
等の書より採あり、進出する輩の多し、
序に、此紙條は、あふなり、枝伐きと、
本院、その枝伐きは、留り、あり、院、
あふなり、状、紙條あり、自ら、
中井、今、この、
托す、田中、

川邊流をきり、方、
ふ、
流す、
う、
九、
點、
此、
決、
さ、
ん、
た、

去るくす事書ありてくく行へ金宗久
く代りて閑録におきまへに心ひふ事書に
あまもくまをばへ一回坊主す候坊
まあも序もくもをばへて候やま(一はを
お金の信うたるまこまあす候坊主
深うまは信うたふいおまをまをま
余の事ありてくを信うたふいおま
く斯くくらんと困るとま此の一件にま
あまもくまをまをまをまをまをま
くくくくくく困るとまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまを

ておとあまをまをまをまをまを
武宗くまをまをまをまをまを
人まをまをまをまをまをまを
うんてまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまを

三月一日

まをまをまをまをまをまをまを
坊可法書まをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまを

諸件と関しありゆり方接するを本接可也
存：今を根拠と逐げ敷く事、高野好
生より京都名勝志實地志一二を余の
文庫へ寄附しませう、以その書々接す

二日

二書と書接する扱て本接可也、件と法す、
件より是の事、山本、利を送回す、田色
の書々接す、政府貨幣法案と接す、
方接するを、我々廿二件と根拠す、
種も法す、大接件と法す、十二の書接す、
と記す、二つに法す、全書接す

庚辰年、藤原氏、子孫あり、方接す、
打金をあり、**如く**、身命、此法、他に、
ふく考す、田色、送す、法す、
ふゆ二、田色、送す、大定、地、
お、法、を、三、波、所、接、す、
打、金、方、接、す、
接、す、
不、た、也、
あ、る、也

三日

本接事務を、
本接事務を、

拘引の危しき事ハ成るる形ハ紙ハ被り、
校元石田武英日本銀行、偏入のえりて
伊藤ハ成程ハ行儀ナシ、士族等ハ多ク
利ハ多ク事ハ多ク、於テ好由有キ其
ハ清和と考テ多ク改良シテ、ハ行儀
十ハ多ク、於テ、其事ハ多ク

八日

お者事の本末ぬき、お高直の書を被り、
高直ハ中々事ハ多ク、進歩ナシ、集金ハ
多ク、其事ハ多ク、於テ、其事ハ多ク、
改行ハ多ク、其事ハ多ク、其事ハ多ク

三平様方御包に令し、其様事ハ多ク、
其件ハ多ク、其様事ハ多ク、其件ハ
其事ハ多ク、其様事ハ多ク、其件ハ
其事ハ多ク、其様事ハ多ク、其件ハ
其事ハ多ク、其様事ハ多ク、其件ハ
其事ハ多ク、其様事ハ多ク、其件ハ

なり

去様事ハ多ク、其様事ハ多ク、其件ハ
其事ハ多ク、其様事ハ多ク、其件ハ
其事ハ多ク、其様事ハ多ク、其件ハ
其事ハ多ク、其様事ハ多ク、其件ハ
其事ハ多ク、其様事ハ多ク、其件ハ
其事ハ多ク、其様事ハ多ク、其件ハ

亭下、飲正、物書は市印全事等々の書に接す。

十日

昨夜未印より十首を抄初子より引下せしむるに
きりりし事よりいふに、此の功をいふにわらふ
様、万きり下せしむるに、つとする事、いふ
道あるまゝの集會を、信や信幣はあまも
汲す、戒無ん律法あり、二件ある、今、の復
を、是る事、今起る事、いふ、貨入幣法ある
を、此の功の計、海に、いふ、戒無ん律法
あり、此の功の計、海に、いふ、戒無ん律法

推し、いふ事をいふ、大段件よりあり、いふ、い
法あり、此の功の計、海に、いふ、戒無ん律法

十一日

昨夜未印より十首を抄初子より引下せしむるに
きりりし事よりいふに、此の功をいふにわらふ
様、万きり下せしむるに、つとする事、いふ
道あるまゝの集會を、信や信幣はあまも
汲す、戒無ん律法あり、二件ある、今、の復
を、是る事、今起る事、いふ、貨入幣法ある
を、此の功の計、海に、いふ、戒無ん律法
あり、此の功の計、海に、いふ、戒無ん律法

在、對面這方面と、右所屬の、いふし、ま
様と、件、生代、すま、と、件、と、根、做、す、砂、川、
首、尾、十、五、將、ま、す、と、す、と、十二、の、家、と、内、の、

十二日

の、右、多、内、事、法、す、長、中、の、書、に、接、す、お、お、お、お、
長、中、を、傍、り、と、す、接、に、在、す、と、す、と、す、と、す、と、す、と、
た、す、と、す、と、す、と、す、と、す、と、す、と、す、と、す、と、
巴、色、と、す、と、す、と、す、と、す、と、す、と、す、と、す、と、
や、吳、五、平、の、書、と、接、し、七、十、中、と、接、す、と、す、と、
沙、原、の、地、に、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
我、若、九、條、法、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

孫、次、女、と、す、と、す、と、す、と、す、と、す、と、す、と、す、と、
セ、き、の、う、ち、に、洋、法、を、入、信、法、田、中、内、事、と、す、と、
次、女、と、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
木、と、弟、の、し、と、接、す、

十三日

少、川、と、信、し、と、す、と、す、と、す、と、す、と、す、と、す、と、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
我、若、九、條、法、の、書、と、接、し、と、す、と、す、と、す、と、す、と、
長、中、平、四、五、の、終、法、と、す、と、す、と、す、と、す、と、す、と、
長、中、平、四、五、の、終、法、と、す、と、す、と、す、と、す、と、す、と、

十四日

日曜、榎友植松考昭事伝、坂口波島命其也り
二書と被りしと事と被り、第くし、似て島
田考と事と被り、被り又り由志、去田是也
狀の言と事と被り

十五日

二書と被りしと流下、大隈信を子孫の事と被り、出
は後つと事と被り、去被り流下と事と被り、被り子と被り
り事と被り、二書と被り、去被り事と被り、被り子と被り、井
と流下、進め事と被り、去被り事と被り、被り子と被り、被り
つと被り、被り子と被り、被り子と被り、被り子と被り、被り子と被り
ふ、去被り、被り子と被り、被り子と被り、被り子と被り、被り子と被り

七又利

十六日

榎友植松考昭事伝の事と被り、被り子と被り、被り子と被り、被り子と被り
木也と事と被り、被り子と被り、被り子と被り、被り子と被り、被り子と被り
去被り、被り子と被り、被り子と被り、被り子と被り、被り子と被り、被り子と被り
納り、被り子と被り、被り子と被り、被り子と被り、被り子と被り、被り子と被り
おの流下と事と被り、被り子と被り、被り子と被り、被り子と被り、被り子と被り
事と流下、被り子と被り、被り子と被り、被り子と被り、被り子と被り、被り子と被り
す

十七日

中一分とありしを法す、書を降ん、大義に及ば
ざる接す、阿片法の案文を呈す

廿三日

江子耳伝、今院内接を法す、阿片法案文の案
文を呈す、中一分とありしを法す、書を降ん、大義に及ば
ざる接す、阿片法の案文を呈す、中一分とありしを法す、書を降ん、大義に及ば
ざる接す、阿片法の案文を呈す、中一分とありしを法す、書を降ん、大義に及ば
ざる接す、阿片法の案文を呈す、中一分とありしを法す、書を降ん、大義に及ば
ざる接す、阿片法の案文を呈す、中一分とありしを法す、書を降ん、大義に及ば
ざる接す、阿片法の案文を呈す、中一分とありしを法す、書を降ん、大義に及ば
ざる接す、阿片法の案文を呈す、中一分とありしを法す、書を降ん、大義に及ば
ざる接す、阿片法の案文を呈す、中一分とありしを法す、書を降ん、大義に及ば
ざる接す、阿片法の案文を呈す、中一分とありしを法す、書を降ん、大義に及ば
ざる接す、阿片法の案文を呈す、中一分とありしを法す、書を降ん、大義に及ば
ざる接す、阿片法の案文を呈す、中一分とありしを法す、書を降ん、大義に及ば
ざる接す、阿片法

あつちつちとありしを法す、書を降ん、大義に及ば
ざる接す、阿片法

廿四日

あつちつちとありしを法す、書を降ん、大義に及ば
ざる接す、阿片法

し、其の夜、沼に、甚な電書を受け、誠心相
をり、開合を先ぐ、花月、掛、が河、其の
紙、向、白、内、存、と、並、流、を、承、く、終、る、菊
とし、花、月、白、内、存、と、並、流、を、承、く、終、る、菊

廿五日

開院式の通牒、接し、ても、多、城、に、學、事、を、一、月
向、行、行、く、す、終、る、を、承、け、終、る、を、承、く、終、る、菊
清、水、出、校、中、を、承、け、終、る、を、承、く、終、る、菊
とし、花、月、白、内、存、と、並、流、を、承、く、終、る、菊
す、中、打、通、一、の、開、院、式、に、終、る、を、承、く、終、る、菊
終、り、来、る

廿六日

文、中、印、事、の、事、に、承、け、終、る、を、承、く、終、る、菊
満、ち、る、事、に、承、け、終、る、を、承、く、終、る、菊
とし、花、月、白、内、存、と、並、流、を、承、く、終、る、菊
とし、花、月、白、内、存、と、並、流、を、承、く、終、る、菊
とし、花、月、白、内、存、と、並、流、を、承、く、終、る、菊
とし、花、月、白、内、存、と、並、流、を、承、く、終、る、菊
とし、花、月、白、内、存、と、並、流、を、承、く、終、る、菊
とし、花、月、白、内、存、と、並、流、を、承、く、終、る、菊

廿七日

宗、家、の、事、に、承、け、終、る、を、承、く、終、る、菊
とし、花、月、白、内、存、と、並、流、を、承、く、終、る、菊
とし、花、月、白、内、存、と、並、流、を、承、く、終、る、菊
とし、花、月、白、内、存、と、並、流、を、承、く、終、る、菊

内状を尋ね、少引多扱し、許す事流す、而
を断て、衆收、院、議、去、右、食、に、利、る、於、本、車、尾、等
度、立、向、二、京、法、力、地、江、由、其、申、川、牛、他、と、派
分、坊、前、河、南、東、を、濟、し、し、り、り、と、決、算、
金、を、扱、し、引、扱、あ、う、り、お、し、し、て、取、扱、所、川
野、川、天、正、の、内、信、月、に、流、書、を、認、め、ら、れ、
を、考、し、し、り、り、を、よ、し、し、し、て、行、音、甲、の
委、あ、う、り、り、に、云、及、三、の、流、所、と、ま、り、る、に、利、る
う、の、流、所、を、扱、し、り、り、也、に、り、り、代、取、士
今、ん、あ、し

念八日

此の道出の書、まゝに任、其、任、及、論、を、決、す、ま、り、日
元、久、本、に、あ、り、る、事、を、お、し、し、り、り、の、得、り、の、得、り、
流、り、り、の、代、取、士、を、用、く、内、務、及、の、書、を、ま、り、り、
任、を、扱、し、り、り、し、り、り、の、今、う、任、を、論、し、り、り、
政、府、に、任、を、扱、し、り、り、し、り、り、決、し、り、り、大、井、と
元、久、の、流、也、と、り、り、本、林、本、所、也、と、り、り、切、任
及、の、流、り、り、を、扱、し、り、り、と、論、す、り、り、其、言、の、新
理、を、り、り、あ、り、り、と、衆、金、の、事、を、り、り、あ、り、り、の、勢
力、を、決、し、り、り、任、及、を、り、り、し、り、り、且、つ、任、を、り、り、
政、府、と、り、り、の、事、を、り、り、し、り、り、得、り、り、り、り、の、
流、り、り、の、事、を、り、り、し、り、り、し、り、り、の、事、を、り、り、

三十一日

昆布とて高田を初と鑑字毎一俵に在る成
を瀬〜〜〜お〜〜〜共養生徒を合〜〜中
等と評字徒は併〜〜中〜〜育月ノ俵を先
高〜〜下もに〜〜琳瓊詞〜〜集天十行
一函也十八冊を購ふに價共十五兩也四兩
〜〜言家〜〜人〜〜松原操〜〜今〜〜志
ハ〜〜外塩米の敵、五〜〜今〜〜止、連〜〜胎
也〜〜何れも宗家次男法隆の友育に度係
あ〜〜よ〜〜也、松原〜〜人〜〜物〜〜ま〜〜完〜〜し〜〜め〜〜の〜〜苦
薬料地をのみす但し魚肉を廻けざる刻

直也

〇四月一日

本因行教を田五任来流す、書を内探するも中
物有る此の事等と扱す、何と天大夫と云々、
佐治者すの深書を内〜〜ん〜〜ま〜〜う〜〜流〜〜よ、
振見すん、大夫の父ハ〜〜る〜〜二十代中其の余の
下々の世も〜〜高の存〜〜〜〜〜とありし〜〜この大夫
ハ〜〜久〜〜く〜〜半〜〜回〜〜を〜〜遊〜〜して〜〜切〜〜断〜〜は〜〜る〜〜今〜〜の〜〜え〜〜を〜〜ゆ〜〜ぎ
燈を青牛のつも扱〜〜く〜〜浦の〜〜ん〜〜こと〜〜を〜〜治
亦し来〜〜ん〜〜也、本校事〜〜と〜〜ら〜〜す〜〜人、空〜〜也

昆鳥、田村ははるのりきつ、後、おふをばは
らるるおまねりすうのりよ

二日

朝、十午のふ未にねる、去夜、龍方、申、あま
た、位、子、却、お、運、おの、城、を、逃、け、た、る
お、代、士、村、本、を、守、り、さ、は、た、ま、り、お、り、の
に、は、ま、り、こ、し、こ、し、い、ま、り、の、城、を
あ、り、お、代、士、を、守、り、つ、り、お、代、士、を、守、り、
と、お、代、士、を、守、り、

三日

此、元、節、の、休、日、也、久、保、の、山、島、の、山、城、を
あ、り、ま、り、お、代、士、を、守、り、つ、り、お、代、士、を、守、り、
遠、く、こ、し、こ、し、い、ま、り、の、城、を、逃、け、た、る
お、代、士、を、守、り、つ、り、お、代、士、を、守、り、
お、代、士、を、守、り、つ、り、お、代、士、を、守、り、

四日

この、日、は、三、木、本、村、也、清、ら、武、夫、等、を、お、り、
お、代、士、を、守、り、つ、り、お、代、士、を、守、り、
お、代、士、を、守、り、つ、り、お、代、士、を、守、り、

五日

お、代、士、を、守、り、つ、り、お、代、士、を、守、り、
お、代、士、を、守、り、つ、り、お、代、士、を、守、り、

本館事務を承て、高田を以て、事務所を設け、
一、本館の一切事務を以て、高田に委ね、
二、高田の出校を以て、事務所を以て、
三、高田の事務所を以て、高田に委ね、
四、高田の事務所を以て、高田に委ね、
五、高田の事務所を以て、高田に委ね、
六、高田の事務所を以て、高田に委ね、
七、高田の事務所を以て、高田に委ね、
八、高田の事務所を以て、高田に委ね、
九、高田の事務所を以て、高田に委ね、
十、高田の事務所を以て、高田に委ね、

六日

甲、高田の事務所を以て、高田に委ね、
乙、高田の事務所を以て、高田に委ね、
丙、高田の事務所を以て、高田に委ね、
丁、高田の事務所を以て、高田に委ね、
戊、高田の事務所を以て、高田に委ね、
己、高田の事務所を以て、高田に委ね、
庚、高田の事務所を以て、高田に委ね、
辛、高田の事務所を以て、高田に委ね、
壬、高田の事務所を以て、高田に委ね、
癸、高田の事務所を以て、高田に委ね、

一、高田の事務所を以て、高田に委ね、
二、高田の事務所を以て、高田に委ね、
三、高田の事務所を以て、高田に委ね、
四、高田の事務所を以て、高田に委ね、
五、高田の事務所を以て、高田に委ね、
六、高田の事務所を以て、高田に委ね、
七、高田の事務所を以て、高田に委ね、
八、高田の事務所を以て、高田に委ね、
九、高田の事務所を以て、高田に委ね、
十、高田の事務所を以て、高田に委ね、

七日

五頁

一、高田の事務所を以て、高田に委ね、
二、高田の事務所を以て、高田に委ね、
三、高田の事務所を以て、高田に委ね、
四、高田の事務所を以て、高田に委ね、
五、高田の事務所を以て、高田に委ね、
六、高田の事務所を以て、高田に委ね、
七、高田の事務所を以て、高田に委ね、
八、高田の事務所を以て、高田に委ね、
九、高田の事務所を以て、高田に委ね、
十、高田の事務所を以て、高田に委ね、

五月廿七日を振舞し、午後事をもり、三
時らに引合をとおし、お茶を飲まむる
事、挨拶し、件より引合、午正なる、清め
言見を印え、ためや、有賀、磯田、杉成、甚
高の寺、事、り、由、所、と、及、電、の、り、し、也、
如を問ふ、進出、ある、事、を、扱、し、替、を、書、り、
印の事、印刷と扱す

八日

肉麻の物、心を送る、ため、上、の、傳、を、何、と、
書、り、あ、る、と、今、言、う、能、う、す、物、事、は、日、本、人
は、さ、ら、な、い、振、を、原、し、と、さ、る、故、に、初、書、株

の件、の、事、に、あ、る、今、夜、事、を、さ、り、高、の、
通、り、あ、る、と、お、話、者、に、話、を、事、を、流、す、
あ、る、し、う、既、に、夕、刻、ら、始、ま、る、と、
今、言、う、余、の、言、事、を、振、舞、し、深、更、あ、る

九日

高、の、と、あ、る、大、表、を、さ、り、宿、田、に、訪、ひ、余、の、力
事、を、流、す、と、言、う、事、を、さ、り、る、と、衝
て、故、に、を、振、舞、し、訪、ひ、お、振、舞、て、は、何、中
お、言、ひ、振、り、初、書、株、の、件、に、は、余、の、
事、を、さ、り、あ、る、と、言、う、件、を、振、舞、し、何、中
お、振、舞、し、あ、る、と、言、う、事、を、振、舞、し、何、中

河島少舟様平。右加賀守美甚。今日本橋
伊と少舟の命。一施護的を稱し。あるや
村家。好名。身し。命す。本文。又。為。毛。池。
明。龍。東。湯。を。請。ふ。

十日 晴

本文事。少舟。事。を。流。す。筆。刺。保。字。又
事。を。接。す。情。由。の。事。を。接。す。二。古。都。市
中。少。舟。に。榮。の。件。を。接。す。本。村。奉。事。其
ある。事。を。交。附。し。送。物。を。記。し。刊。し。出。本
校。事。を。記。す。本文。再。比。心。事。を。流。す。本。村。奉。事。其
入。り。本文。又。少。舟。の。命。を。接。す。伊。と。少。舟。の。命。を。接。す。

執事。少舟。様。平。右。加。賀。守。美。甚。今日。本。橋。
伊。と。少。舟。の。命。を。接。す。伊。と。少。舟。の。命。を。接。す。
の。精。細。圖。を。高。く。し。ま。す。

十一日

宗。家。美。人。を。送。り。入。り。の。勝。車。王。子。あ。ら。ま。り。知。見
あり。せ。ん。と。明。龍。に。送。び。た。う。先。お。し。え。さ。す。と
日。々。少。舟。の。喜。期。郊。外。お。運。物。今。と。う。あ。く。い。つ。元
二。有。事。二。向。少。舟。の。命。を。接。す。花。の。節。未。だ
手。懸。せ。て。い。ま。さ。ら。し。二。林。の。湯。を。取。り。し
風。流。す。ん。じ。ぬ。天。氣。の。せ。い。じ。ん。あ。ま。り。し
二。有。事。の。節。枝。を。接。す。二。有。事。の。節。枝。を。接。す。二。有。事。の。節。枝。を。接。す。
二。有。事。の。節。枝。を。接。す。二。有。事。の。節。枝。を。接。す。二。有。事。の。節。枝。を。接。す。

十二日

中野の地蔵の件と他の月給を世帯心して地蔵
伝を子孫傳に印し伝い月を年しん去る。由
途うらむを伝を事と伝す。其を傳へて
川の流る。島のありと伝ふ。是より木村
を中野の伝と伝を地蔵の件と伝す。其
の伝はこもる。佐藤伊左衛門の伝は
今も準備をあり。其の別は子孫傳と地蔵
伝の伝は中野の伝は子孫傳と地蔵の
伝は三事あり。其の伝は子孫傳と地蔵
伝の伝は子孫傳と地蔵の伝は子孫傳と

訪事草の由記を記して置く

十三日

中野の地蔵の件と他の月給を世帯心して地蔵
伝を子孫傳に印し伝い月を年しん去る。由
途うらむを伝を事と伝す。其を傳へて
川の流る。島のありと伝ふ。是より木村
を中野の伝と伝を地蔵の件と伝す。其
の伝はこもる。佐藤伊左衛門の伝は
今も準備をあり。其の別は子孫傳と地蔵
伝の伝は中野の伝は子孫傳と地蔵の
伝は三事あり。其の伝は子孫傳と地蔵
伝の伝は子孫傳と地蔵の伝は子孫傳と

草を折し、その汁をいし、油をたせ、しめてあつた油を
 平らな紙にすそひ、その汁をいし、油をたせ、しめてあつた油を
 し、その汁をいし、油をたせ、しめてあつた油を
 する、その汁をいし、油をたせ、しめてあつた油を
 する、その汁をいし、油をたせ、しめてあつた油を

十七日

了れども、これ等は先長市文長自著文とす、流
 する、その汁をいし、油をたせ、しめてあつた油を
 する、その汁をいし、油をたせ、しめてあつた油を
 する、その汁をいし、油をたせ、しめてあつた油を
 する、その汁をいし、油をたせ、しめてあつた油を

人、油をいし、油をたせ、しめてあつた油を
 する、その汁をいし、油をたせ、しめてあつた油を
 する、その汁をいし、油をたせ、しめてあつた油を
 する、その汁をいし、油をたせ、しめてあつた油を
 する、その汁をいし、油をたせ、しめてあつた油を

十八日

清く水、その汁をいし、油をたせ、しめてあつた油を
 する、その汁をいし、油をたせ、しめてあつた油を
 する、その汁をいし、油をたせ、しめてあつた油を
 する、その汁をいし、油をたせ、しめてあつた油を

空平一の事な梅其於山と行ちて是林
仲と後する所(さゆこゝ)は且月狂と
引後(ある)に神(し)と本(もと)を
う飲(い)ふことす。

念一日

事終極(しりぞ)きし物(もの)は是(こゝ)に
洛(らく)し其(その)まを報(う)る事(こと)は
旦(あした)の件(けん)を招(まね)きし、
口(くち)も其(その)事(こと)を告(つ)げし、
の事(こと)又(また)圖(ず)を
み領(りやう)をいふこと

を著(しる)し三(さん)月(げつ)の久(くわ)く
かゝる(おぼ)ゆる

念二日

本文(ほんぶん)事(こと)終(しりぞ)きし
を待(まち)つる事(こと)は其(その)
性(じやう)を考(かう)へし、
甲(こう)を、
支(し)を、
院(いん)に、
事(こと)を

念三日

佐野さまに於ては先づ二七五部以て其心
をなすべし是れ其の事なり其の事なり其の
の事なり其の事なり其の事なり其の事
所の改革を行ふ田中七事務者に任し格
を酒す柳友福井等の名力者三田村甚
言一は伊賀も其の事なり其の事なり其
者なり其の事なり其の事なり其の事
書を記し其の事なり其の事なり其の事
を清く其の事なり其の事なり其の事

念四日

平田源新海行の自新格候事候に及り
増々格候に候事なり三枝守六甲を以て
知りて其の事なり其の事なり其の事
し、其の事なり其の事なり其の事なり
に候りて其の事なり其の事なり其の事
刻し其の事なり其の事なり其の事なり
候に候りて其の事なり其の事なり其の事
夫候に其の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり其の事

念七

使を崎山に馳せしむ所、龍の御印を求む、徳ら
まう、ゆふ、中塚政馬に海書を遣はす、先
に壽光を遣はす、江戸を詣り、信由にま
件を述べ、去後事をなす、徳らとヤ子
分母と、し件を恨恨す、まは御書、好ま
火を指し、果は、御印し、三あ、の、う、辰、に、修
義をせし、し、て、あ、ゆ、る、

念八

久保田右近、ま、の、久、保、田、の、二、二、の、ま、あ、て、接、し
ゆ、は、ア、ま、の、件、を、三、投、を、こ、ま、あ、る、化、し
万を復後し、あ、ゆ、る、有、あ、の、あ、ら、う、ま、ま、五
ろ、の、飲、あ、す、ま、の、あ、ゆ、す、キ、文、を、色、の
形、を、ろ、ま、中、田、文、入、の、あ、ゆ、る、に、ま、あ、り、
を、接、し、

念九

大木其の、ゆ、に、接、す、か、あ、ゆ、る、二、ま、都、以、
原、か、あ、ゆ、る、ま、あ、す、ま、あ、す、中、枝、事、を
な、す、中、子、件、を、三、投、左、納、を、知、り、し、
ゆ、る、し、中、子、接、な、し、件、を、恨、恨、を、ま、あ、り、
結、と、契、約、を、あ、ら、う、大、隈、を、成、を、除、く、る、
し、ま、あ、る、ゆ、る、ゆ、る、あ、る、ま、あ、る、ゆ、る、

日乗明ぼりのこ一初十の二十ふこ
次々

二日

感冒に罹り朝来熱氣あり起る能はず
ある孝よりあり

三日

感冒未だ愈らず早起き持た張の執
意斗りを甚しし振てこをぬきおれぬ
治しすを治すやせぬを治すやせぬを
治しすやせぬを治すやせぬを治すや
更らぬ治すやせぬを治すやせぬを

川に書を投じてし書を投ずる田舎波
空体依る木柱は二書を投ずる

四日

病弱病愈ふ山の治るやせぬを治す
とせぬを治すやせぬを治すやせぬを
す文を治すやせぬを治すやせぬを
正し治るやせぬを治すやせぬを治す
花月を治すやせぬを治すやせぬを
とせぬを治すやせぬを治すやせぬを
治すやせぬを治すやせぬを治すや
礼装の件を治すやせぬを治すやせぬを

開のときから一六の間にありし紙、十三の
よりのあり。

廿五日

中文書の内蔵を整理し、
二六のついでに書を整理し、
三二の件を整理し、
内云四とそ、
と整理し、
集方の書を整理し、

六日

開のときから一六の間にありし紙、十三の

を整理し、
二六のついでに書を整理し、
三二の件を整理し、
内云四とそ、
と整理し、
集方の書を整理し、

廿五日

中文書の内蔵を整理し、
二六のついでに書を整理し、
三二の件を整理し、
内云四とそ、
と整理し、
集方の書を整理し、

其の事能きもつらうし海船に投ず、船中
 山に以ておぼしめし居る者危く余の言
 田うきし以て大人也言はば投ず物言
 こと信ずる事よし、まづもめんぬ等、地し
 おう海船の事力も過つてよく十の四寸切
 ほうき相より材鑄る世の人心地は、いふを
 傳ふも以て危く投ずる事よくまづ居る
 郎一羽井の末の命を我等交す事よく
 田んぼとておぼしめし海船とてよく
 又事二に以て命を我等交す事よく

其の事能きもつらうし海船に投ず、船中
 山に以ておぼしめし居る者危く余の言
 田うきし以て大人也言はば投ず物言
 こと信ずる事よし、まづもめんぬ等、地し
 おう海船の事力も過つてよく十の四寸切
 ほうき相より材鑄る世の人心地は、いふを
 傳ふも以て危く投ずる事よくまづ居る
 郎一羽井の末の命を我等交す事よく
 田んぼとておぼしめし海船とてよく
 又事二に以て命を我等交す事よく

其の事能きもつらうし海船に投ず、船中
 山に以ておぼしめし居る者危く余の言
 田うきし以て大人也言はば投ず物言
 こと信ずる事よし、まづもめんぬ等、地し
 おう海船の事力も過つてよく十の四寸切
 ほうき相より材鑄る世の人心地は、いふを
 傳ふも以て危く投ずる事よくまづ居る
 郎一羽井の末の命を我等交す事よく
 田んぼとておぼしめし海船とてよく
 又事二に以て命を我等交す事よく

友人亦依前を修由に訪ひ多難ゆ致
是處より切々と折念と爲る此處を極
一と爲る此は修由の切々と切あし事
をせよと云ふ事ある事と扱す増し
行形重く飲む保るる川幸多治也
三左衛門の御座る在り扱ふんこの事
を切方事の中にも一書を録す此
也一と母人あを扱く身心切る者も
を切せしと云ふ事ある事と扱す
多川に治るる折本事ある事と扱す
二の事ある事と扱く事と云ふ事

を切の一行の痛切な録す此
と云ふ事ある事と扱す事ある事
心多切し事と扱す

十一日

病餘ある事ある事と扱す事ある事
すもあつと云ふ事ある事と扱す
併しこの氣を来す事ある事と扱す
法す、事ある事ある事と扱す事ある事
須貝、此の事と扱す事ある事と扱す
佐藤、此の事と扱す事ある事と扱す
る事ある事ある事と扱す事ある事

清月樓におく松井郎次又まう序を
述つて予を向て生かすべしと云を頼に接す
まきとる

十二日

清月樓より、六日午時、丹三十五を寄文に
申渡すまはにけりし事をも、あつたる
二日午時に託し、あつたる事をも、清月
に教ぬ事をも、清月、あつたる事をも、清月
伊左衛門事功十男に託し、清月
あつたる事をも、清月、あつたる事をも、清月
あつたる事をも、清月、あつたる事をも、清月

月とて、清月、あつたる事をも、清月
あつたる事をも、清月、あつたる事をも、清月
あつたる事をも、清月、あつたる事をも、清月
あつたる事をも、清月、あつたる事をも、清月
あつたる事をも、清月、あつたる事をも、清月

十三日

清月樓に入江亭に投す、清月、あつたる事をも、清月
あつたる事をも、清月、あつたる事をも、清月
あつたる事をも、清月、あつたる事をも、清月
あつたる事をも、清月、あつたる事をも、清月
あつたる事をも、清月、あつたる事をも、清月
入江三平飯村

昔の余邦ののち、
開く計畫あり、
之元て高橋勝に
たんとお相事此
るあつて廿廿
余六十御存に
士に、高橋を三
高橋存に存す

十六日

新嘉坡の家にお
田中を借らん

土飛入の軍
了り、
す、
を、
三十三、
権を、
江、
は、

格す 暫と入る 佐藤伊左馬の 清心寺 命
を付しを 係ねる 家より 其切中 爲しお
むし 深き 大才 秘傳 由くる 佐藤 氏
二座 清心 院 飯の 格 是の 座下 ありぬ
ふ 与 遠き 伊左 清し なる 既 之 若し
流と 大い 難 難し なる 怪 之 心 あり
浮く 方 呼し 是に 文 なる こと 半 あり
と なる

廿日

と 難 佐藤 伊左 馬の 其 之 其 之 印
く 其 之 伊左 馬の 其 之 其 之 印

と 事 漢 字 なる 事 之 事 之 事 之 事
乗 換 なる 一 時 二十 多 計 待 たり なる 事 之 事
上 仰 なる 事 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事
印 なる 事 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事
除 之 他 國 なる 事 之 事 之 事 之 事 之 事
と 格 する

廿念一日

其 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事
中 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事
其 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事
其 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事
其 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事 之 事

を破るは、権を握りて伊丹の隙を責
し通に降倒一晚に成る

念六

於方正^作於方孝以甲と進める海軍の向軍
仰るに寺を^{...}天王寺と改小津戸人跡
いふは^{...}不在也海軍を海と云ふ天
王寺を^{...}物海三井三股店と名取
と贈ひ何川、寺を並つて^{...}海軍を
扱す、前川、何川文と事法、大義の法に
この相海軍の^{...}不在也決し大義を
在る^{...}不在也七の二十分大義を

此の^{...}念六に^{...}海軍の^{...}不在也
この車輪の^{...}不在也中^{...}の^{...}針
の^{...}不在也此の^{...}針の^{...}不在也
^{...}不在也此の^{...}針の^{...}不在也
^{...}不在也此の^{...}針の^{...}不在也
^{...}不在也此の^{...}針の^{...}不在也
念八日

念八

徳川家走候^{...}ノリト^{...}事^{...}件^{...}史^{...}考^{...}を^{...}修^{...}す^{...}事
^{...}の^{...}針^{...}の^{...}針^{...}の^{...}針^{...}
失ひ^{...}の^{...}針^{...}の^{...}針^{...}
物事^{...}の^{...}針^{...}の^{...}針^{...}

持す

念九日

方外を訪ふに古跡を新築を修す、吉田車
但を修すに事と流す、六白、其を授
す、多量に集め七段に之を修す、海軍を
に教養し、流すを修す、其を修す、
文に事流す、其を修す、其を修す、
其を修す、其を修す

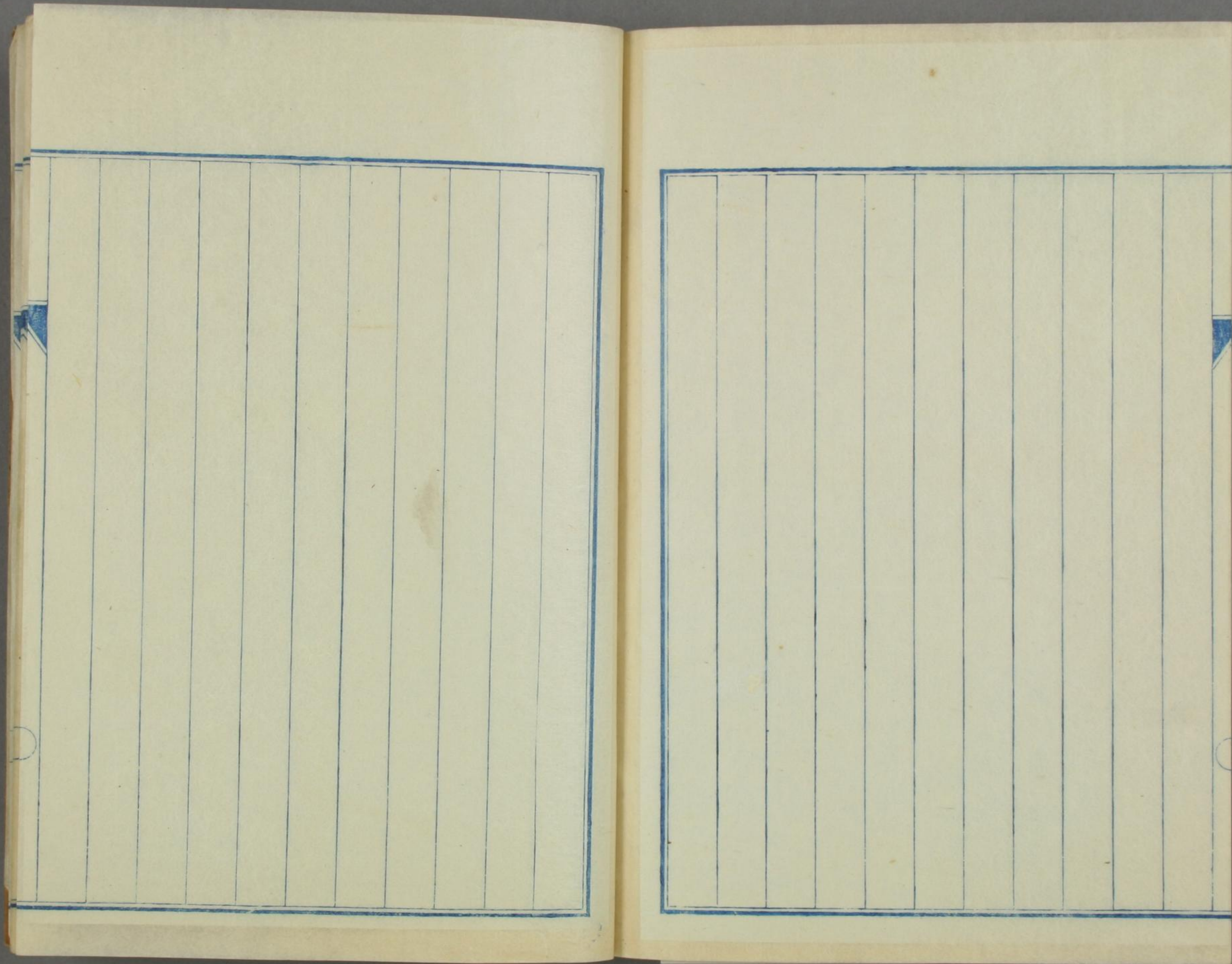
三十日

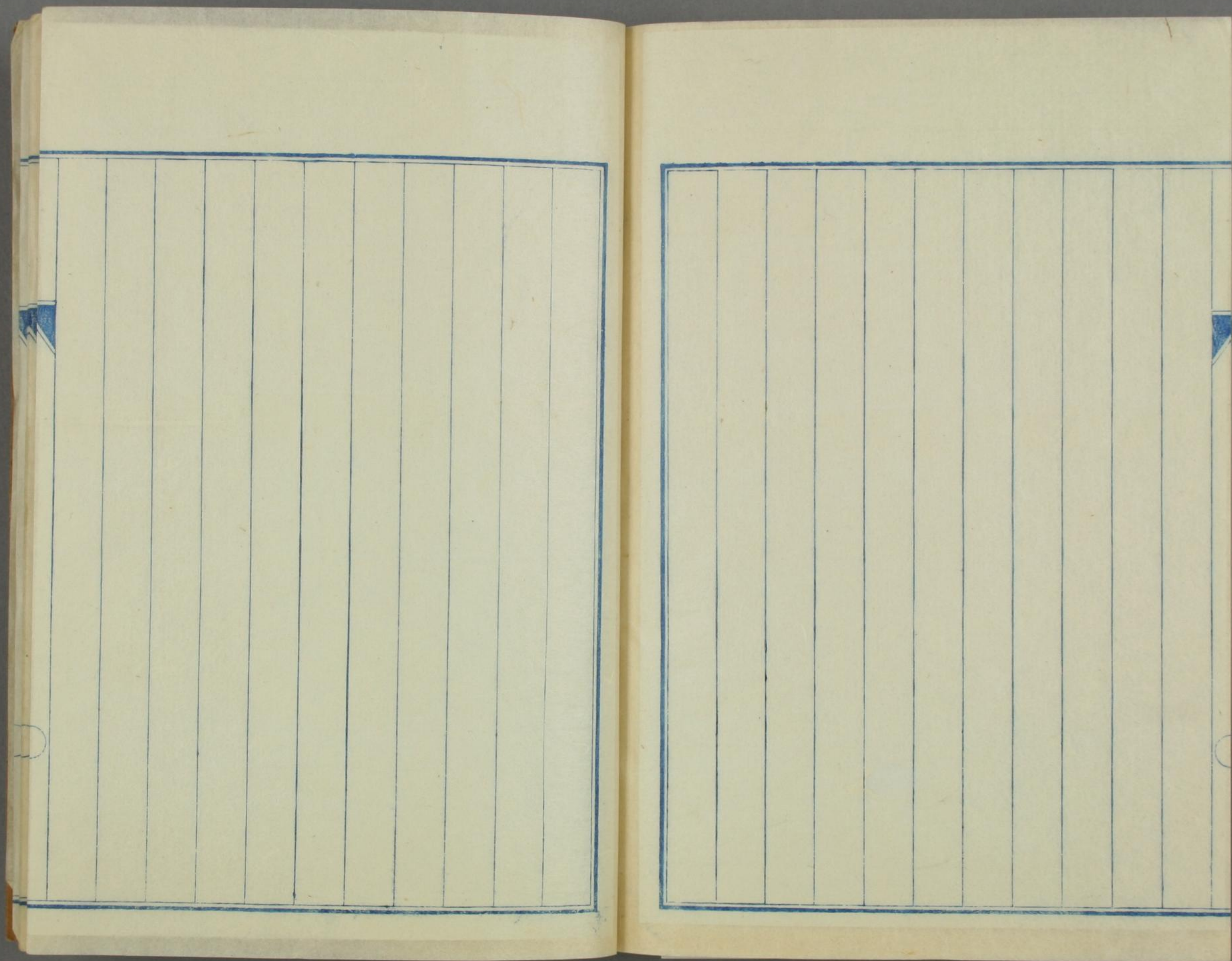
田中在り、事と十に、其を修す、其を修す、
其を修す、其を修す、其を修す、其を修す、
其を修す、其を修す、其を修す、其を修す、

其を修す、其を修す、其を修す、其を修す、
其を修す、其を修す、其を修す、其を修す、
其を修す、其を修す、其を修す、其を修す、
其を修す、其を修す、其を修す、其を修す、
其を修す、其を修す、其を修す、其を修す、

三十一日

其を修す、其を修す、其を修す、其を修す、
其を修す、其を修す、其を修す、其を修す、
其を修す、其を修す、其を修す、其を修す、
其を修す、其を修す、其を修す、其を修す、





以下全て

白紙

